

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100455		
法人名	医療法人社団初心会		
事業所名	グループホームひじり	ユニット名	青葉通
所在地	仙台市青葉区八幡6丁目8番26号		
自己評価作成日	令和 4年 9月 9日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 10月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で、一年を通し季節を感じていただけるよう、季節ごとの行事に力を入れています。昨年からは庭に菜園と花壇をつくり、野菜や花を栽培し収穫した野菜は調理し提供しています。6月からは近隣で生活しているシリア人留学生をアルバイトで採用し、施設環境整備の業務を担当していただいています。9月末には防災訓練を地域住民合同で実施する予定です。地域の方々との交流を行い、地域社会との繋がりを大切にしています。自立と尊厳を尊重し、安心できる暮らしの提供を理念に掲げ、入居者様を主としたケアを意識し取り組んでいます。時間に追われることなく落ち着いた環境でゆっくりコミュニケーションをとり、安全・安心な生活が送れるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道48号線沿いにあり、5年前に旧八幡スケートセンターの跡地に開設された。広瀬川が近くを流れ、静かで自然に恵まれ、窓越しに四季折々の景色が楽しめる。近くにある法人病院が開催するプロレス観戦や音楽祭などに入居者が参加して楽しんでいる。法人病院が協力医として医療面を支え、ホームに看護職員が配置されて家族や職員に安心感を与えている。毎年ユニット目標を掲げ、ミーティングでアイデアを出し合いケアの向上に努めている。目標達成計画の「地域住民との交流」は清掃活動や防災訓練で達成している。「食事の栄養面」は法人管理栄養士の助言を個々の食事に反映させた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームひじり) 「 ユニット名 青葉通り 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、グループホームひじり理念、年度目標を各ユニット事務所に掲示しています。全職員が共通認識をもち日々のケアに繋がっています。	ホーム理念は設立時から継続している。2月に年度目標と個人目標を設定している。ケアの検討時、職員が同じ方向を向き意識を合わせるよう理念を確認している。ミーティング時に個人目標の達成状況を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、総会や清掃活動等に積極的に参加しています。そのなかで情報交換を行い、日常的に交流しています。	5月の清掃活動の後、町内会の方とバーベキューをして交流を図った。11月の町内会の防災訓練で炊き出し訓練を兼ねた芋煮会を予定している。ホームの駐車場を災害時の避難場所として提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方々との交流の機会を設けています。認知症に対する理解を深め、適時必要な情報提供を心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での助言や、ご家族様からのご意見、要望も参考にサービスの向上に努めています。	2カ月毎に開催している。コロナ禍で書面会議となっている。地域包括職員から「インシデント・アクシデント報告を活かし、安心安全に努めてください」や家族から日頃の感謝などの意見を貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターへの実情、活動報告をしています。宮城県、仙台市担当者とも迅速に相談、報告を行い、良好な協力関係を築けるよう取り組んでいます。	市の認知症基礎研修会にオンライン参加した。担当窓口に事故報告で訪れ、家族とのトラブル回避のための対応方法のアドバイスを受けた。コロナ抗原検査キッドの配布があり、体調不良時の職員に使用した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しい知識の習得を目的に、外部研修やオンライン研修に職員全員参加しています。身体拘束廃止委員会の活動も1つで、第三者(法人職員)を招いてケアの質を振り返る機会を設けています。	「身体拘束廃止委員会」を3カ月毎に開催し、議事録を回覧している。勉強会でグレーゾーンの事例を話し合い、職員間の意識を合わせている。「座ってて」などのスピーチロックに注意し、話を聞く対応に変わってきている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	正しい知識の習得を目的に、外部研修やオンライン研修に職員全員参加しています。不適切なケアが放置されることなく相談できる体制作りにも努めています。	勉強会を年2回開催している。ミーティング時に対応に困った事例を話し合い、独りで抱え込まないよう配慮している。管理者は虐待の前兆を見逃さないよう、日々の職員の精神状態を把握し、都度対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会へ参加し、職員全員への伝達講習を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には十分な説明を心掛け、入居後も積極的にお声掛けさせて頂き入居者、ご家族様の不安や疑問解消に努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様が要望・ご意見をグループホームや第三者委員に報告出来ることを明記した文書を掲示しています。日頃から良好な関係を築けるように配慮しています。	家族から「コロナ禍で面会がなかなかできないが様子を知りたい」の要望に、玄関先で距離をおいての面会方法で対応した。病院受診を紹介された折、家族からの要望で日常生活を知る管理者も同行した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期ミーティング、年1回の個人面談を行い職員の意見や提案等を聞く機会を設けています。1つの問題に対し職員同士が活発な意見交換を行うことでモチベーションが高まり、協力体制や意思疎通がスムーズになっています。	敷地内の竹林が鬱蒼として薄暗いとの意見から竹を切り、明るく風通しが良くなった。実務者研修などの研修は勤務扱いとし、受講料を法人が負担している。家庭の事情による休暇の希望に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常日頃から職員とのコミュニケーションを通して職員個々の能力を認め、必要性を伝えています。役割を明確に伝えることで向上心や、やりがいに繋がっていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修情報を職員へ情報共有し、参加を希望する職員へは業務調整支援しています。研修後は参加した職員が講師となり伝達講習を行い、職員同士のスキル向上に繋がっています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加により、他事業所職員や講師との交流で得たネットワークを活用し自施設のサービス向上に努めています。	外部研修会で知り合った管理者に、地域の方との交流の持ち方の相談をした。ケアマネのオンライン研修会で同業者と情報交換をした。調剤薬局の薬剤師に薬の飲み込みの悪い方への対処方法を相談した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とのコミュニケーションの中から、不安や困っていることに耳を傾け、ご家族様との情報交換を密に行い、本人様が安心できる生活支援に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に向け介護支援専門員と共に、本人様やご家族様の不安、要望を聞き取り、可能な限り受け入れるように努めています。入居後も細目にお声掛けすることで良好な関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集、本人とご家族様の思い、これまでの生活歴等を考慮し、職員間で情報を共有し、あらゆる角度からアプローチをし、その時々に必要な支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アクティビティを通して、職員は入居者様と一緒に楽しむことを心掛けています。活動制限や参加制約をせずに「出来る事」を見守るように心掛けています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様との情報交換を細目に行っています。本人とご家族様との絆をしっかりとサポートする立場であることを自覚し関わっています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様宛のお電話やお手紙もしっかりお繋げし、時にはお手紙のお返事を職員と一緒に書いてお出しする事もあります。	窓越し面会が開始され、親族との関係継続を支援している。家族と墓参りに行った方がいる。毎月来訪する法人の音楽療法士や訪問マッサージ師、訪問理美容師と新しい馴染みの関係を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係性を考慮した座席配置をしています。アクティビティ時には、入居者様が孤立することのないように職員から積極的に声掛けするように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人様が「その時」にあった生活をサポート出来るように必要に応じた相談、支援を行う事をお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活のなかで発した言葉や要望を職員間で共有する。更に過去の生活歴をや、時にはご家族様からお話しをお聞きし、入居者様にとって最善な生活に繋がる思いや意向の把握に努めています。	入浴時など1対1で話をする時に思いや意向を汲み取り、申し送りノートに記入して共有している。水分補給はメニュー表から希望の飲み物を選んで貰っている。「お寿司が食べたい」に出前で食し喜ばれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査では、これまでの生活歴を中心に本人様とご家族様よりお話を伺い情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の健康状態、言動等を日々観察し、介護記録や申し送り(申し送りノート)を用いて職員全員が把握・共有出来るように努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集、ケアプランの策定、ケアの実行、カンファレンス、モニタリングといった一連のプロセスを本人・家族の要望や関係者の意見を取入れ、課題・目標を明確にし、継続的な展開を意識した介護計画を作成しています。	夜間にトイレを認識できなくなった方の排泄タイミングを検討し、6時間でトイレ誘導する支援に変更した。家族と相談して訪問マッサージを介護計画に取り入れた。家族の要望で、食器拭きなどの役割を盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを個別介護記録や申し送りノートを利用し職員間で情報共有を行ない介護計画の見直しに繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応するために、現状をしっかりと把握し『今必要な事は何か?』あらゆる角度から分析し柔軟な支援を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し積極的な交流を行い、入居者様にとって日常生活に楽しみ、生きがいを感じていただける支援を進めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療を受診し主治医に対し、本人様の様子やご家族様の希望を細かく報告・相談しています。受診報告は月1回文章でご家族様へ報告しています。緊急時にも主治医に連絡し指示を仰いでいます。	全員が協力医の訪問診療を受けている。専門医受診は家族が対応し、情報提供は口頭で行っている。歯の治療は訪問歯科を利用している。看護職員が配置され、緊急時も関係機関と連携を取り合っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在籍の看護職員を中心に、関係機関の看護職員とは都度、情報交換を行い適切な医療診療が受けられる体制を整えています。緊急時も連携を取り合い支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者と情報交換を行い、入居者様とご家族様が安心して治療できる環境を整えるよう心掛けています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはご家族様の要望をお聞きし、これから先の方針を決めています。本人様が望むであろう過ごし方、ご家族様と過ごす時間を見直し支援しています。職員には、看護師による看取り事前研修会、事後の振り返り研修を行いました。	入居時に「入居者が重度化した場合における対応に係る指針」を説明している。状態の回復が見込めない時、医師が家族に説明して看取りの契約をする。今年1件の看取りを行った。看取り時の夜間対応手順書の希望があり、作成する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止の取組、緊急時の対応方法を学ぶ内部研修を全職員受講しています。的確な初期対応が出来るように実践訓練にも取り組みます。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回、定期的に行い職員間で通報・初期消火・避難誘導等の確認訓練を実施しています。地域住民との災害訓練にも参加予定で、近隣住民の方との役割分担を明確にし協力体制を築きます。	夜間想定を含む年2回の消防訓練を実施した。土砂災害危険区域であり、7月の大雨時には近くの同法人病院に避難した。町内会の防災訓練に参加する。消防訓練の反省点等の記録をお願いしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通して、人格の尊重・プライバシー確保に対する知識の習得を行っています。居室訪室時にはノックをしてから入室する。排泄時の見守りや声掛けにもプライドを損ねない配慮をしています。	名前は「さん」付けて呼んでいる。プライドの高い方や謙遜する方など、各々の性格を職員間で共有している。排泄の失敗時は「ちょっと一緒に来ていただけませんか」と声掛けてトイレに誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の希望や季節感を味わえる外出企画では、本人の思いが反映されるように、個別でお話をお聞きし、自己決定出来るよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームでのタイムスケジュールは設定していますが、時間内に終わらせる事を優先させるのではなく、本人が希望する生活のリズムを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望を尊重しています。希望する物品依頼があれば、ご家族様に相談し準備をお願いしています。清潔感のある身だしなみを心掛け支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べ物の好みや、その方に合った食事形態で提供しています。季節の食材を取入れ、目で楽しめる盛り付けの工夫もしています。食事の準備や後片づけも入居者様と一緒にしています。	献立は職員が作成している。ハンバーグなどの洋食が喜ばれ、寿司やピザの出前をとることもある。誕生会のケーキのデコレーションを皆でやった。感染予防のため、席は対面にならないよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に合った食事形態を管理栄養士、言語聴覚士からの助言を参考にバランスの摂れたメニューを決め提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めています。歯磨きが不十分な入居者様には職員が仕上げ磨きを行います。訪問歯科診療時、専門家からの助言を職員間で情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立排泄を目的に、生活・排泄パターンを把握し、適切なタイミングでの声掛け、トイレ誘導の参考にしてしている。全ての入居者様が認識出来るように、馴染みの表現方法でトイレの場所表示をしています。	日中は全員がトイレで排泄している。夜間オムツ利用者への声掛けは各々のタイミングで行っている。夜間は人感センサーの誘導灯で安全に配慮している。トイレは「お手洗い」や「便所」等を併記している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を取り入れた食事の提供、便秘解消運動の取組み。また、ご家族様からも便秘予防につながる情報をお聞きし、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴を楽しんで頂けるように室内温度、湯加減に気を付けています。希望があれば入浴剤を入れ、香りを楽しんでもらいます。午前と午後、入浴時間は入居者様の意に沿えるようにしています。	入浴は1日3名で実施している。自立している方の場合、職員は脱衣所で待機しプライバシーに配慮している。着脱時に2人介助の対応がある。湯は都度入れ替え、入浴剤は3種類から選んで貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、休憩や睡眠をとって頂けるようにしています。その際、居室の環境(温度、明るさ等)に気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬に関する詳細は薬情ファイル(お薬説明書)を確認し支援しています。職員がいつでも閲覧できるように所定の場所に設置しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様やご家族様からの趣味や得意なこと等をお聞きし、グループホームでの役割、楽しみを共にこなうことで、生活に張り合いを感じて頂けるように支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂ける外出や、本人が希望する場所への外出企画を積極的に提案しています。法人で企画開催されるプロレス観戦も楽しみの1つです。天気の良い日は近所の散歩、畑作業を手伝っていただいています。	法人病院が企画するプロレス観戦やアフリカンバンドの音楽会に出掛けた。同病院の庭で管理者が引く人力車に乗って楽しんだ。天気の良い日は近くの広瀬川まで散歩に出掛ける。畑で育てたモロッコインゲンなどを入居者が収穫して楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し管理が可能であれば、ご家族様の了承得て、所持できるよう配慮しています。外出先では個人のお小遣いから支払います。支払い証明書を発行し金額・購入品をご家族様に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様やご家族様から要望がある時には、電話やお手紙のやり取りが出来るように支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、廊下、居室の温度・湿度管理を行い快適に生活出来るようにしている。フロアにはサーキュレーターを設置し対流を図り、1日3回定時で換気を行っている。居室にはご家族様からの写真やお手紙を掲示し、居心地良く生活が送れる工夫をしています。	フロアにクリスマスツリーや雛人形など、季節の飾り付けを職員と一緒にしている。夏の灯籠や書初めなど入居者の作品を壁に貼っている。YouTubeで口腔体操をしたり、美空ひばりの歌や寅さんの映画を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活歴や生活習慣等、その方の人間関係の傾向を考慮し、思い思いに過ごせる座席配置やスペース確保の工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込み、本人様が落ち着いて、くつろげる空間になるようにご家族様の協力を頂き、入居者様と共に環境整備をしています。	備え付けのクローゼットは収納力が大きい。テレビや机、椅子、ソファを持ち込み、写真や本、化粧品、ハーモニカなど馴染みの物に囲まれて過ごしている。昼食後は居室で午睡する方が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を設置し、自分のお部屋が分かるようにしています。トイレや浴室などの共同スペースには、その方が理解しやすい言葉やマークで表示する配慮をしています。浴室＝風呂場 トイレ＝お手洗い、便所		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100455		
法人名	医療法人社団初心会		
事業所名	グループホームひじり	ユニット名	定禅寺通
所在地	仙台市青葉区八幡6丁目8番26号		
自己評価作成日	令和 4年 9月 9日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 10月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で、一年を通し季節を感じていただけるよう、季節ごとの行事に力を入れています。昨年からは庭に菜園と花壇をつくり、野菜や花を栽培し収穫した野菜は調理し提供しています。6月からは近隣で生活しているシリア人留学生をアルバイトで採用し、施設環境整備の業務を担当していただいています。9月末には防災訓練を地域住民合同で実施する予定です。地域の方々との交流を行い、地域社会との繋がりを大切にしています。自立と尊厳を尊重し、安心できる暮らしの提供を理念に掲げ、入居者様を主としたケアを意識し取り組んでいます。時間に追われることなく落ち着いた環境でゆっくりコミュニケーションをとり、安全・安心な生活が送れるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道48号線沿いにあり、5年前に旧八幡スケートセンターの跡地に開設された。広瀬川が近くを流れ、静かで自然に恵まれ、窓越しに四季折々の景色が楽しめる。近くにある法人病院が開催するプロレス観戦や音楽祭などに入居者が参加して楽しんでいる。法人病院が協力医として医療面を支え、ホームに看護職員が配置されて家族や職員に安心感を与えている。毎年ユニット目標を掲げ、ミーティングでアイデアを出し合いケアの向上に努めている。目標達成計画の「地域住民との交流」は清掃活動や防災訓練で達成している。「食事の栄養面」は法人管理栄養士の助言を個々の食事に反映させた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームひじり)「 ユニット名 定禅寺通り 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、グループホームひじり理念、年度目標を各ユニット事務所に掲示しています。全職員が共通認識をもち日々のケアに繋がっています。	ホーム理念は設立時から継続している。2月に年度目標と個人目標を設定している。ケアの検討時、職員が同じ方向を向き意識を合わせるよう理念を確認している。ミーティング時に個人目標の達成状況を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、総会や清掃活動等に積極的に参加しています。そのなかで情報交換を行い、日常的に交流しています。	5月の清掃活動の後、町内会の方とバーベキューをして交流を図った。11月の町内会の防災訓練で炊き出し訓練を兼ねた芋煮会を予定している。ホームの駐車場を災害時の避難場所として提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方々との交流の機会を設けています。認知症に対する理解を深め、適時必要な情報提供を心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での助言や、ご家族様からのご意見、要望も参考にサービスの向上に努めています。	2カ月毎に開催している。コロナ禍で書面会議となっている。地域包括職員から「インシデント・アクシデント報告を活かし、安心安全に努めてください」や家族から日頃の感謝などの意見を貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターへの実情、活動報告をしています。宮城県、仙台市担当者とも迅速に相談、報告を行い、良好な協力関係を築けるよう取り組んでいます。	市の認知症基礎研修会にオンライン参加した。担当窓口に事故報告で訪れ、家族とのトラブル回避のための対応方法のアドバイスを受けた。コロナ抗原検査キッドの配布があり、体調不良時の職員に使用した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しい知識の習得を目的に、外部研修やオンライン研修に職員全員参加しています。身体拘束廃止委員会の活動も1つで、第三者(法人職員)を招いてケアの質を振り返る機会を設けています。	「身体拘束廃止委員会」を3カ月毎に開催し、議事録を回覧している。勉強会でグレーゾーンの事例を話し合い、職員間の意識を合わせている。「座ってて」などのスピーチロックに注意し、話を聞く対応に変わってきている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	正しい知識の習得を目的に、外部研修やオンライン研修に職員全員参加しています。不適切なケアが放置されることなく相談できる体制作りにも努めています。	勉強会を年2回開催している。ミーティング時に対応に困った事例を話し合い、独りで抱え込まないよう配慮している。管理者は虐待の前兆を見逃さないよう、日々の職員の精神状態を把握し、都度対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会へ参加し、職員全員への伝達講習を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には十分な説明を心掛け、入居後も積極的にお声掛けさせて頂き入居者、ご家族様の不安や疑問解消に努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様が要望・ご意見をグループホームや第三者委員に報告出来ることを明記した文書を掲示しています。日頃から良好な関係を築けるように配慮しています。	家族から「コロナ禍で面会がなかなかできないが様子を知りたい」の要望に、玄関先で距離をおいての面会方法で対応した。病院受診を紹介された折、家族からの要望で日常生活を知る管理者も同行した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期ミーティング、年1回の個人面談を行い職員の意見や提案等を聞く機会を設けています。1つの問題に対し職員同士が活発な意見交換を行うことでモチベーションが高まり、協力体制や意思疎通がスムーズになっています。	敷地内の竹林が鬱蒼として薄暗いとの意見から竹を切り、明るく風通しが良くなった。実務者研修などの研修は勤務扱いとし、受講料を法人が負担している。家庭の事情による休暇の希望に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常日頃から職員とのコミュニケーションを通して職員個々の能力を認め、必要性を伝えています。役割を明確に伝えることで向上心や、やりがいに繋がっていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修情報を職員へ情報共有し、参加を希望する職員へは業務調整支援しています。研修後は参加した職員が講師となり伝達講習を行い、職員同士のスキル向上に繋がっています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加により、他事業所職員や講師との交流で得たネットワークを活用し自施設のサービス向上に努めています。	外部研修会で知り合った管理者に、地域の方との交流の持ち方の相談をした。ケアマネのオンライン研修会で同業者と情報交換をした。調剤薬局の薬剤師に薬の飲み込みの悪い方への対処方法を相談した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とのコミュニケーションの中から、不安や困っていることに耳を傾け、ご家族様との情報交換を密に行い、本人様が安心できる生活支援に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に向け介護支援専門員と共に、本人様やご家族様の不安、要望を聞き取り、可能な限り受け入れるように努めています。入居後も細目にお声掛けすることで良好な関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集、本人とご家族様の思い、これまでの生活歴等を考慮し、職員間で情報を共有し、あらゆる角度からアプローチをし、その時々に必要な支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アクティビティを通して、職員は入居者様と一緒に楽しむことを心掛けています。活動制限や参加制約をせずに「出来る事」を見守るように心掛けています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様との情報交換を細目に行っています。本人とご家族様との絆をしっかりとサポートする立場であることを自覚し関わっています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様宛のお電話やお手紙もしっかりお繋げし、時にはお手紙のお返事を職員と一緒に書いてお出しする事もあります。	窓越し面会が開始され、親族との関係継続を支援している。家族と墓参りに行った方がいる。毎月来訪する法人の音楽療法士や訪問マッサージ師、訪問理美容師と新しい馴染みの関係を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係性を考慮した座席配置をしています。アクティビティ時には、入居者様が孤立することのないように職員から積極的に声掛けするように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人様が「その時」にあった生活をサポート出来るように必要に応じた相談、支援を行う事をお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活のなかで発した言葉や要望を職員間で共有する。更に過去の生活歴をや、時にはご家族様からお話しをお聞きし、入居者様にとって最善な生活に繋がる思いや意向の把握に努めています。	入浴時など1対1で話をする時に思いや意向を汲み取り、申し送りノートに記入して共有している。水分補給はメニュー表から希望の飲み物を選んで貰っている。「お寿司が食べたい」に出前で食し喜ばれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査では、これまでの生活歴を中心に本人様とご家族様よりお話を伺い情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の健康状態、言動等を日々観察し、介護記録や申し送り(申し送りノート)を用いて職員全員が把握・共有出来るように努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集、ケアプランの策定、ケアの実行、カンファレンス、モニタリングといった一連のプロセスを本人・家族の要望や関係者の意見を取入れ、課題・目標を明確にし、継続的な展開を意識した介護計画を作成しています。	夜間にトイレを認識できなくなった方の排泄タイミングを検討し、6時間でトイレ誘導する支援に変更した。家族と相談して訪問マッサージを介護計画に取り入れた。家族の要望で、食器拭きなどの役割を盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを個別介護記録や申し送りノートを利用し職員間で情報共有を行ない介護計画の見直しに繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応するために、現状をしっかりと把握し『今必要な事は何か?』あらゆる角度から分析し柔軟な支援を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し積極的な交流を行い、入居者様にとって日常生活に楽しみ、生きがいを感じていただける支援を進めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療を受診し主治医に対し、本人様の様子やご家族様の希望を細かく報告・相談しています。受診報告は月1回文章でご家族様へ報告しています。緊急時にも主治医に連絡し指示を仰いでいます。	全員が協力医の訪問診療を受けている。専門医受診は家族が対応し、情報提供は口頭で行っている。歯の治療は訪問歯科を利用している。看護職員が配置され、緊急時も関係機関と連携を取り合っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在籍の看護職員を中心に、関係機関の看護職員とは都度、情報交換を行い適切な医療診療が受けられる体制を整えています。緊急時も連携を取り合い支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者と情報交換を行い、入居者様とご家族様が安心して治療できる環境を整えるよう心掛けています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはご家族様の要望をお聞きし、これから先の方針を決めています。本人様が望むであろう過ごし方、ご家族様と過ごす時間を見直し支援しています。職員には、看護師による看取り事前研修会、事後の振り返り研修を行いました。	入居時に「入居者が重度化した場合における対応に係る指針」を説明している。状態の回復が見込めない時、医師が家族に説明して看取りの契約をする。今年1件の看取りを行った。看取り時の夜間対応手順書の希望があり、作成する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止の取組、緊急時の対応方法を学ぶ内部研修を全職員受講しています。的確な初期対応が出来るように実践訓練にも取り組みます。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回、定期的に行い職員間で通報・初期消火・避難誘導等の確認訓練を実施しています。地域住民との災害訓練にも参加予定で、近隣住民の方との役割分担を明確にし協力体制を築きます。	夜間想定を含む年2回の消防訓練を実施した。土砂災害危険区域であり、7月の大雨時には近くの同法人病院に避難した。町内会の防災訓練に参加する。消防訓練の反省点等の記録をお願いしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通して、人格の尊重・プライバシー確保に対する知識の習得を行っています。居室訪室時にはノックをしてから入室する。排泄時の見守りや声掛けにもプライドを損ねない配慮をしています。	名前は「さん」付けて呼んでいる。プライドの高い方や謙遜する方など、各々の性格を職員間で共有している。排泄の失敗時は「ちょっと一緒に来ていただけませんか」と声掛けてトイレに誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の希望や季節感を味わえる外出企画では、本人の思いが反映されるように、個別でお話をお聞きし、自己決定出来るよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームでのタイムスケジュールは設定していますが、時間内に終わらせる事を優先させるのではなく、本人が希望する生活のリズムを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望を尊重しています。希望する物品依頼があれば、ご家族様に相談し準備をお願いしています。清潔感のある身だしなみを心掛け支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べ物の好みや、その方に合った食事形態で提供しています。季節の食材を取入れ、目で楽しめる盛り付けの工夫もしています。食事の準備や後片づけも入居者様と一緒にしています。	献立は職員が作成している。ハンバーグなどの洋食が喜ばれ、寿司やピザの出前をとることもある。誕生会のケーキのデコレーションを皆でやった。感染予防のため、席は対面にならないよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に合った食事形態を管理栄養士、言語聴覚士からの助言を参考にバランスの摂れたメニューを決め提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めています。歯磨きが不十分な入居者様には職員が仕上げ磨きを行います。訪問歯科診療時、専門家からの助言を職員間で情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立排泄を目的に、生活・排泄パターンを把握し、適切なタイミングでの声掛け、トイレ誘導の参考にしてしている。全ての入居者様が認識出来るように、馴染みの表現方法でトイレの場所表示をしています。	日中は全員がトイレで排泄している。夜間オムツ利用者への声掛けは各々のタイミングで行っている。夜間は人感センサーの誘導灯で安全に配慮している。トイレは「お手洗い」や「便所」等を併記している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を取り入れた食事の提供、便秘解消運動の取組み。また、ご家族様からも便秘予防につながる情報をお聞きし、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴を楽しんで頂けるように室内温度、湯加減に気を付けています。希望があれば入浴剤を入れ、香りを楽しんでもらいます。午前と午後、入浴時間は入居者様の意に沿えるようにしています。	入浴は1日3名で実施している。自立している方の場合、職員は脱衣所で待機しプライバシーに配慮している。着脱時に2人介助の対応がある。湯は都度入れ替え、入浴剤は3種類から選んで貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、休憩や睡眠をとって頂けるようにしています。その際、居室の環境(温度、明るさ等)に気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬に関する詳細は薬情ファイル(お薬説明書)を確認し支援しています。職員がいつでも閲覧できるように所定の場所に設置しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様やご家族様からの趣味や得意なこと等をお聞きし、グループホームでの役割、楽しみを共に過ごさうことで、生活に張り合いを感じて頂けるように支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂ける外出や、本人が希望する場所への外出企画を積極的に提案しています。法人で企画開催されるプロレス観戦も楽しみの1つです。天気の良い日は近所の散歩、畑作業を手伝っていただいています。	法人病院が企画するプロレス観戦やアフリカンバンドの音楽会に出かけた。同病院の庭で管理者が引く人力車に乗って楽しんだ。天気の良い日は近くの広瀬川まで散歩に出かける。畑で育てたモロッコインゲンなどを入居者が収穫して楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し管理が可能であれば、ご家族様の了承を得て、所持できるよう配慮しています。外出先では個人のお小遣いから支払います。支払い証明書を発行し金額・購入品をご家族様に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様やご家族様から要望がある時には、電話やお手紙のやり取りが出来るように支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、廊下、居室の温度・湿度管理を行い快適に生活出来るようにしている。フロアにはサーキュレーターを設置し対流を図り、1日3回定時で換気を行っている。居室にはご家族様からの写真やお手紙を掲示し、居心地良く生活が送れる工夫をしています。	フロアにクリスマスツリーや雛人形など、季節の飾り付けを職員と一緒にしている。夏の灯籠や書初めなど入居者の作品を壁に貼っている。YouTubeで口腔体操をしたり、美空ひばりの歌や寅さんの映画を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活歴や生活習慣等、その方の人間関係の傾向を考慮し、思い思いに過ごせる座席配置やスペース確保の工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込み、本人様が落ち着いて、くつろげる空間になるようにご家族様の協力を頂き、入居者様と共に環境整備をしています。	備え付けのクローゼットは収納力が大きい。テレビや机、椅子、ソファを持ち込み、写真や本、化粧品、ハーモニカなど馴染みの物に囲まれて過ごしている。昼食後は居室で午睡する方が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を設置し、自分のお部屋が分かるようにしています。トイレや浴室などの共同スペースには、その方が理解しやすい言葉やマークで表示する配慮をしています。浴室＝風呂場 トイレ＝お手洗い、便所		